



ハイブリッド カレンダー サービスの既知の問題

- [Office 365 \(クラウドベースのサービス\) \(1 ページ\)](#)
- [Google カレンダー \(クラウドベースのサービス\) \(4 ページ\)](#)
- [Exchange と Office 365 \(Expressway ベースのカレンダーコネクタ\) \(6 ページ\)](#)

Office 365 (クラウドベースのサービス)

展開

- クラウドベースのサービスに割り当てられた Office 365 ユーザ (クラスタ「Cisco Webex Cloud」と同様に Cisco Webex Control Hub で指定される) には、Control Hub に次の永続的なエラーメッセージが表示されることがあります。「カレンダーコネクタを含むクラスタが見つかりませんでした。(Could not find cluster with Calendar Connector.) 別のリソースグループを選択するか、カレンダーコネクタを含む新しいクラスタを設定してください。(Could not find cluster with Calendar Connector.)」このエラーは無視できます。
- クラウドベースのサービスは、電子メールアドレスにアポストロフィが含まれているユーザをアクティブにしません。ユーザを Expressway ベースのカレンダーコネクタから移行する場合は、ハイブリッドカレンダーサービスはそれらのユーザをクラウドベースのサービスに移動しません。ユーザはカレンダーコネクタ上にとどまります。

一般的なスケジューリングの問題 (すべてのキーワード)

- 招待されたデバイスでOBTPが一貫して機能するようにするには、メールシステムに会議のコメントを自動的に削除するポリシーがないことを確認する必要があります。次の PowerShell コマンドは、ハイブリッド カレンダー サービスが会議の処理に使用できるように、コメントが保持されることを保証します。

```
Set-CalendarProcessing -identity "room" -DeleteComments $false
```

- ハイブリッドカレンダー サービス 共有カレンダーはサポートされていません。サービスは、共有カレンダーやグループカレンダーではなく、ユーザの実際のカレンダーで会議がスケジュールされている限り、代理人が他のユーザの代わりにスケジュールした会議を処理できます。
- 5 ヶ月以上先にスケジュールされた会議は、Microsoft Office 365 用のクラウドベースのハイブリッドカレンダー サービスではすぐに処理されない場合があります。このサービスは、スライディングウィンドウを使用して毎日 5 ～ 6 ヶ月先の会議を処理するため、会議の予定日がウィンドウ内に収まる場合は、それが処理され、会議参加の詳細が表示されます。
- 定例会議シリーズの 1 つのインスタンスにスケジューリングキーワードまたはサポートされているビデオアドレスを追加した場合は、会議の参加の詳細が更新されません。回避策として、会議シリーズ全体にキーワードまたはビデオアドレスを追加します。
- ハイブリッドカレンダー サービス は、過去にスケジュールされた会議に会議参加情報を自動的に追加しません。
- 配布リストが会議に招待されている場合は、招待が受け入れられるまで、その会議がユーザの Webex アプリの会議リストに表示されません。ユーザは、会議の応答を開催者に送信する必要があります。

Webex パーソナルルーム ミーティングのスケジューリング (@webex や @meet:myroom などのキーワード)

- ハイブリッドカレンダー サービス は、会議の招待に Webex 参加リンクがすでに含まれている場合（生産性向上ツールを使用して追加された場合や会議主催者によって手動で追加された場合など）は、Webex 詳細を追加しません。会議主催者は、過去に追加された参加リンクを手動で削除して、ハイブリッドカレンダー サービス が新しい参加リンクを追加できるようにすることができます。
- ハイブリッドカレンダー サービス は、300 人を超えるミーティングの招待を含むミーティングを処理しません。
- Webex Site Administration で [パイロット番号の使用 (Use a Pilot Number)] をオンにした場合に含まれるテキストの行を変更すること以外に、会議の詳細テンプレートをカスタマイズすることはできません。手順については、「[Cisco Webex Hybrid カレンダーサービスで使用する電子メール テンプレートを @Webex でカスタマイズできますか?](#)」を参照してください。

Cisco Webex スペースでのスケジューリング (@webex:space、@meet、@spark などのキーワード)

- スペースキーワード スケジューリングでは、現在、最大 60 人の会議参加者がサポートされています。60 人を超える参加者を招待した会議主催者には、最大数を超えたことを示す電子メールメッセージが送信されます。

- スペースキーワードスケジューリングでは、現在、配布リストを処理しません。配布リストの個々のメンバーは、スペースへの参加に関する詳細とともに会議の招待を受信しますが、スペースに自動的に追加されることはありません。回避策として、会議主催者は、招待を送信する前に、宛先行でメーラーを拡張できます。その場合は、各ユーザが別々にスペースに追加されます。
- ユーザがスペースキーワードを使用してミーティングの招待に追加した添付ファイルは、対応するスペースに追加されません。
- ハイブリッドカレンダーサービスは、Cisco Webex ユーザではない会議招待者に対して個別の電子メールメッセージを送信しなくなり、サインアップするように招待します。
- スペースでスケジュールされた会議に使用される会議の詳細テンプレートをカスタマイズすることはできません。

ワンボタン機能 (OBTP)

- Webex アプリの [参加 (Join)] ボタンと会議リストに関連した問題については、「[Cisco Webex Meetings の既知の問題](#)」の項目を参照してください。

Cisco TMS と Office 365 の統合

- 今後の会議をホストするようにスケジュールされている会議ブリッジが使用できなくなった場合、Cisco TMS は別のブリッジを使用するように会議の参加の詳細を更新します。ただし、主催者が会議の招待を変更しない限り、Office 365 では会議参加の詳細は更新されません。そのため、招待者が招待から会議に参加しようとする問題が発生する可能性があります。
- Office 365 の会議スケジューラのタイムゾーンが Cisco TMS のスケジューラのタイムゾーンと一致しない場合は、システムで定例会議のスケジュールに問題が生じる可能性があります。これにより、Office 365 と Cisco TMS でインスタンスの日付の不一致を引き起こす場合があります。回避策として、Office 365 のユーザのタイムゾーンが Cisco TMS のタイムゾーンと一致することを確認します。
- @meet を使用してスケジュールされた定例会議シリーズでは、Office 365 での開始日と終了日または発生回数に対する変更が Cisco TMS で更新されません。（シリーズ全体の開始時刻と終了時刻に対する変更は想定どおりに行われます）。回避策として、シリーズを削除して新しいシリーズを作成します。
- @meet を使用してスケジュールされた定例会議シリーズが複数回編集された場合に、Office 365 ではシリーズが正しく更新されますが、Cisco TMS では正しく更新されないことがあります。この動作は一貫していません。たとえば、シリーズの1つのインスタンスに参加者を追加してから、シリーズ全体のテーマを変更すると、変更されたインスタンスのテーマのみが変更される場合や、変更されたインスタンス以外のすべてのインスタンスのテーマが変更される場合があります。
- Office 365 でエンドポイントがすでに @meet 以外の会議の特定のタイムスロットに対して予約されており、主催者が予約されたタイムスロットと重なる定例会議を @meet を使用

してスケジュールした場合は、エンドポイントが会議を拒否したというメッセージが主催者に送信されますが、Cisco TMS では定例会議が作成されます。

このような会議の場合は、カレンダーコネクタが追加の会議要求を送信して、次の文字列のいずれかを含む 2 種類の情報メッセージを記録します。

- `status:MEETING_NOT_FOUND_ON_TMS`
- `status:UNEXPECTED_EXCEPTION`
- Expressway ホストが登録された組織が `@meet` キーワードアクションを [Cisco TelePresence Management Suite] に設定したが、Expressway の [アプリケーション (Applications)] > [ハイブリッドサービス (Hybrid Services)] > [カレンダーサービス (Calendar Service)] > [Cisco 会議サービスの設定 (Cisco Conferencing Services Configuration)] ページでカレンダーコネクタが Cisco TMS にリンクされていない場合は、カレンダーコネクタでアラームが発生する必要があります。このアラームは実装されていません。
- Expressway コネクタホストから Cisco TMS の設定を削除しても、ユーザは Expressway コネクタホストが再起動されるまで、Cisco TMS での `@meet` 会議のスケジュールリングを続けることができます。回避策は、Cisco TMS の設定を削除した後に、Expressway コネクタホストを再起動することです。

Google カレンダー（クラウドベースのサービス）

一般的なスケジュールリングの問題（すべてのキーワード）

- ハイブリッドカレンダー サービス 共有カレンダーはサポートされていません。サービスは、共有カレンダーやグループカレンダーではなく、ユーザの実際のカレンダーで会議がスケジュールされている限り、代理人が他のユーザの代わりにスケジュールした会議を処理できます。
- 定例会議シリーズの 1 つのインスタンスにスケジュールリングキーワードまたはサポートされているビデオアドレスを追加した場合は、会議の参加の詳細が更新されません。回避策として、会議シリーズ全体にキーワードまたはビデオアドレスを追加します。
- ハイブリッドカレンダー サービス は、過去にスケジュールされた会議に会議参加情報を自動的に追加しません。
- 同じ配信リストをミーティングに招待した場合、そのミーティングはユーザの Webex Teams ミーティングリストに表示されません。

Webex パーソナルルーム ミーティングのスケジュールリング (`@webex` や `@meet:myroom` などのキーワード)

- ハイブリッドカレンダー サービス は、会議の招待に Webex 参加リンクがすでに含まれている場合（生産性向上ツールを使用して追加された場合や会議主催者によって手動で追加された場合など）は、Webex 詳細を追加しません。会議主催者は、過去に追加された参加

リンクを手動で削除して、ハイブリッドカレンダーサービスが新しい参加リンクを追加できるようにすることができます。

- ハイブリッドカレンダーサービスは、300人を超えるミーティングの招待を含むミーティングを処理しません。
- Webex Site Administration で [パイロット番号の使用 (Use a Pilot Number)] をオンにした場合に含まれるテキストの行を変更すること以外に、会議の詳細テンプレートをカスタマイズすることはできません。手順については、「[Cisco Webex Hybrid カレンダーサービスで使用される電子メールテンプレートを @Webex でカスタマイズできますか?](#)」を参照してください。

Cisco Webex スペースでのスケジューリング (@webex:space、@meet、@spark などのキーワード)

- スペースキーワード スケジューリングでは、現在、最大 60 人の会議参加者がサポートされています。60人を超える参加者を招待した会議主催者には、最大数を越えたことを示す電子メールメッセージが送信されます。
- スペースキーワードスケジューリングでは、現在、配布リストを処理しません。配布リストの個々のメンバーは、スペースへの参加に関する詳細とともに会議の招待を受信しますが、スペースに自動的に追加されることはありません。回避策として、会議主催者は、招待を送信する前に、宛先行でメーラーを拡張できます。その場合は、各ユーザが別々にスペースに追加されます。
- ユーザがスペースキーワードを使用してミーティングの招待に追加した添付ファイルは、対応するスペースに追加されません。
- ハイブリッドカレンダーサービスは、Cisco Webex ユーザではない会議招待者に対して個別の電子メールメッセージを送信しなくなり、サインアップするように招待します。
- スペースでスケジュールされた会議に使用される会議の詳細テンプレートをカスタマイズすることはできません。

ワンボタン機能 (OBTP)

- Webex アプリの [参加 (Join)] ボタンと会議リストに関連した問題については、「[Cisco Webex Meetings の既知の問題](#)」の項目を参照してください。

Cisco TMS と Google カレンダーの統合

- 今後の会議をホストするようにスケジュールされている会議ブリッジが使用できなくなった場合、Cisco TMS は別のブリッジを使用するように会議の参加の詳細を更新します。ただし、主催者が会議の招待を変更しない限り、Google カレンダーでは会議参加の詳細は更新されません。そのため、招待者が招待から会議に参加しようとする問題が発生する可能性があります。

- Google カレンダーの会議スケジューラのタイムゾーンが Cisco TMS のスケジューラのタイムゾーンと一致しない場合は、システムで定例会議のスケジュールに問題が生じる可能性があります。これにより、Google カレンダーと Cisco TMS でインスタンスの日付の不一致を引き起こす場合があります。回避策として、Google カレンダーのユーザのタイムゾーンが Cisco TMS のタイムゾーンと一致することを確認します。
- @meet を使用してスケジュールされた定例会議シリーズが複数回編集された場合に、Google カレンダーではシリーズが正しく更新されますが、Cisco TMS では正しく更新されないことがあります。この動作は一貫していません。たとえば、シリーズの1つのインスタンスのテーマを変更してから、シリーズ全体のテーマを変更すると、変更されたインスタンスのテーマのみが変更される場合や、変更されたインスタンス以外のすべてのインスタンスのテーマが変更される場合があります。
- Google カレンダーでエンドポイントがすでに @meet 以外の会議の特定のタイムスロットに対して予約されており、主催者が予約されたタイムスロットと重なる会議を @meet を使用してスケジュールした場合は、エンドポイントが会議を拒否したというメッセージが主催者に送信されますが、Cisco TMS では重なった会議が作成されます。

このような会議の場合は、カレンダーコネクタが追加の会議要求を送信して、次の文字列のいずれかを含む 2 種類の情報メッセージを記録します。

- status:MEETING_NOT_FOUND_ON_TMS
- status:UNEXPECTED_EXCEPTION

- Expressway ホストが登録された組織が @meet キーワードアクションを [Cisco TelePresence Management Suite] に設定したが、Expressway の [アプリケーション (Applications)] > [ハイブリッドサービス (Hybrid Services)] > [カレンダーサービス (Calendar Service)] > [Cisco 会議サービスの設定 (Cisco Conferencing Services Configuration)] ページでカレンダーコネクタが Cisco TMS にリンクされていない場合は、カレンダーコネクタでアラームが発生する必要があります。このアラームは実装されていません。
- Expressway コネクタホストから Cisco TMS の設定を削除しても、ユーザは Expressway コネクタホストが再起動されるまで、Cisco TMS での @meet 会議のスケジューリングを続けることができます。回避策は、Cisco TMS の設定を削除した後に、Expressway コネクタホストを再起動することです。

Exchange と Office 365 (Expressway ベースのカレンダーコネクタ)

カレンダーコネクタの展開と設定

- カレンダー コネクタ は、組織ごとに最大 2 つの Expressway インスタンスを含む単一のラスタをサポートします。

- プロキシ接続では、基本認証を使用するか、ユーザ名とパスワードを使用しない必要があります。他の認証方式はサポートされていません。
- 現在、カレンダーコネクタは、多要素認証（MFA）を使用するためにサービス（偽装）アカウントを必要とする Exchange 組織をサポートしていません。
- 一部のお客様の場合は、カレンダーコネクタから「リダイレクトされた Microsoft Exchange Autodiscovery URL が変更され、信頼されていません（Redirected Microsoft Exchange Autodiscovery URL not trusted）」という内容の重大なアラームが生成されます。この問題により、ユーザのカレンダーイベントの処理に遅延が発生する場合があります。場合によっては、カレンダーコネクタが一部のユーザにサービスを提供できなくなります。

このアラームが表示された場合は、[自動検出リダイレクト URL 信頼リスト](#)を使用して、カレンダーコネクタによるユーザ メールボックスの検索方法を設定します。

- 一部のお客様の場合は、カレンダーコネクタが `hybrid_services_log` ファイルに「NTLM 認証エラー：NTLM 認証にクレデンシャルが使用できません（NTLM authentication error: Credentials cannot be used for NTLM authentication）」という内容の警告を書き込みます。これは、Expressway の [アプリケーション (Applications)] > [ハイブリッドサービス (Hybrid Services)] > [コネクタプロキシ (Connector Proxy)] ページでコネクタプロキシが設定されており、そのプロキシが認証を必要とする場合に発生する可能性があります。コネクタプロキシが基本認証方式をサポートしている場合または認証を必要としない場合には、回避策は必要ありません。
- カレンダーコネクタを登録解除するか、Expressway 上の唯一のハイブリッドサービスである場合に非アクティブにすると、Expressway が、ハイブリッドサービス コネクタが登録されない、設定変更が伝搬されない、またはその他の問題が発生するエラー状態になる可能性があります。回避策は、Expressway を再起動して、コネクタを再登録することです。
- ハイブリッド カレンダー サービスがオンまたはオフになっているユーザのセットを返すために <https://admin.webex.com> で検索することはできません。
- Cisco Webex サイトをカレンダーコネクタの設定に追加する場合は、完全修飾サイト名の値をすべて小文字で入力する必要があります。大文字を使用すると、カレンダーコネクタが「サービス到達不能またはアクセス拒否」アラームが発生します。
- Cisco TMS 統合では、現在、Microsoft Exchange または Exchange ハイブリッド展開（Microsoft Exchange と Office 365 の組み合わせ）はサポートされていません。この統合は、現在、Office 365 用のクラウドベースのハイブリッド カレンダー サービスまたは Google カレンダー用のクラウドベースのハイブリッド カレンダー サービスとのみ連動します。
この統合では、カレンダーコネクタを使用して、ハイブリッド カレンダー サービスと Cisco TMS がリンクされます。Expressway-C で TMS のスケジューリング オプションを設定すると、同じカレンダーコネクタを Microsoft Exchange にリンクできなくなります。その逆も同様です。

一般的なスケジューリングの問題（すべてのキーワード）

- ハイブリッドカレンダー サービス 共有カレンダーはサポートされていません。サービスは、共有カレンダーやグループカレンダーではなく、ユーザの実際のカレンダーで会議がスケジュールされている限り、代理人が他のユーザの代わりにスケジュールした会議を処理できます。
- 定例会議シリーズの1つのインスタンスにスケジューリングキーワードまたはサポートされているビデオアドレスを追加した場合は、会議の参加の詳細が更新されません。回避策として、会議シリーズ全体にキーワードまたはビデオアドレスを追加します。
- ユーザがキーワードまたはサポートされているビデオアドレスを指定してスケジュールされた会議を受信したときに、Outlook の受信トレイに複数の会議招待が表示されることがあります。回避策として、[設定 (Settings)] > [カレンダー (Calendar)] > [自動処理 (Automatic Processing)] で、Microsoft Outlook Web アプリの次のチェックボックスをオンにします。

- 更新された会議出席依頼と返信を削除する
- 外部の送信者からの会議出席依頼および返信を自動的に処理します

これらの設定は Web アプリでしか使用できませんが、上記の変更はすべての Outlook クライアントに適用されます。

- ハイブリッドカレンダー サービス は、電子メールアドレスが一重引用符で囲まれている招待者の会議の招待に会議参加リンクを追加しません。回避策として、招待内の電子メールアドレスを一重引用符で囲まないようにします。
- 招待されたデバイスでOBTPが一貫して機能するようにするには、メールシステムに会議のコメントを自動的に削除するポリシーがないことを確認する必要があります。次の PowerShell コマンドは、ハイブリッド カレンダー サービスが会議の処理に使用できるように、コメントが保持されることを保証します。

```
Set-CalendarProcessing -identity "room" -DeleteComments $false
```

- Microsoft Outlook 2016 の一部のバージョンでは、スケジューリングキーワードが [ロケーション (location)] フィールドに含まれている予定定例会議の 1 つのインスタンスを変更すると、本文テキストと参加リンクが消える可能性があります。
 - 可能な場合は、Outlook の最新バージョンにアップグレードします。
 - アップグレードできない場合は、影響を受けるインスタンスを削除してから再スケジュールします。
 - 会議シリーズのその他のインスタンスは影響を受けません。
- Microsoft Outlook 2011 for Mac を使用している会議主催者にはミーティングの招待に参加リンクが表示されない場合がありますが、招待者にはリンクが送信されます。これは Outlook 2011 for Mac の問題であり、解決策は新しいバージョンの Outlook for Mac にアップグレードすることです。

- ハイブリッド カレンダー サービス は、過去にスケジュールされた会議に会議参加情報を自動的に追加しません。
- 主催者の代わりに代理人が会議をキャンセルした場合は、Hybrid カレンダー サービスが Webex アプリの会議リストから会議を削除するのに最大 24 時間かかる可能性があります。
- 配布リストが会議に招待されている場合は、招待が受け入れられるまで、その会議がユーザの Webex アプリの会議リストに表示されません。ユーザは、会議の応答を開催者に送信する必要があります。

Webex パーソナルルーム ミーティングのスケジュールリング (@webex や @meet:myroom などのキーワード)

- ハイブリッド カレンダー サービス は、会議の招待に Webex 参加リンクがすでに含まれている場合（生産性向上ツールを使用して追加された場合や会議主催者によって手動で追加された場合など）は、Webex 詳細を追加しません。会議主催者は、過去に追加された参加リンクを手動で削除して、ハイブリッド カレンダー サービス が新しい参加リンクを追加できるようにすることができます。
- ハイブリッド カレンダー サービス は、300 人を超えるミーティングの招待を含むミーティングを処理しません。
- Webex Site Administration で [パイロット番号の使用 (Use a Pilot Number)] をオンにした場合に含まれるテキストの行を変更すること以外に、会議の詳細テンプレートをカスタマイズすることはできません。手順については、「[Cisco Webex Hybrid カレンダー サービスで 使用される電子メールテンプレートを @Webex でカスタマイズできますか?](#)」を参照してください。

Cisco Webex スペースでのスケジュールリング (@webex:space、@meet、@spark などのキーワード)

- スペースキーワード スケジュールリングでは、現在、最大 60 人の会議参加者がサポートされています。60 人を超える参加者を招待した会議主催者には、最大数を超えたことを示す電子メールメッセージが送信されます。
- スペースキーワード スケジュールリングでは、現在、配布リストを処理しません。配布リストの個々のメンバーは、スペースへの参加に関する詳細とともに会議の招待を受信しますが、スペースに自動的に追加されることはありません。回避策として、会議主催者は、招待を送信する前に、宛先行でメーラーを拡張できます。その場合は、各ユーザが別々にスペースに追加されます。
- ハイブリッド カレンダー サービスは、Cisco Webex ユーザではない会議招待者に対して個別の電子メール メッセージを送信なくなり、サインアップするように招待します。
- ユーザがスペースキーワードを使用してミーティングの招待に追加した添付ファイルは、対応するスペースに追加されません。
- スペースでスケジュールされた会議に使用される会議の詳細テンプレートをカスタマイズすることはできません。

ワンボタン機能（OBTP）

- Webex アプリの [参加（Join）] ボタンと会議リストに関連した問題については、「[Cisco Webex Meetings の既知の問題](#)」の項目を参照してください。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。